

2025年度桐生大学・桐生大学短期大学部数理・データサイエンス・AI教育自己点検評価

1. 成績分布

・修了要件科目（科目名：データサイエンス（必修科目））

学部	学科	履修者数	S	A	B	C	不合格※ ¹	未履修	修得者数	修得者率
医療保健学部	看護学科	63	5	30	20	7	1	0	62	98.4%
	栄養学科	47	5	14	11	13	4	0	43	91.4%
短期大学部	アート・デザイン学科	62	2	20	32	8	0	0	62	100.0%

※1不合格はD判定（0点～59点）及び不可（出席日数不足等による受験資格なし）

2. 授業評価アンケート

看護学科 回答者数24名

栄養学科 回答者数35名

アート・デザイン学科回答者数43名

設問

- (1) この授業に対する、あなたの取り組みを5段階で評価してください。
- (2) この授業にどの程度準備(予習復習、シラバスを読む、等)をして臨んでいますか。準備の度合いを5段階で評価してください。
- (3) 講義概要(シラバス)に沿って授業が行われていますか。
- (4) この授業の教材(テキスト、資料、視聴覚教材、等)は、よく準備されていると思いますか。
- (5) 教員の教授法(説明、板書、速度など全般)は理解しやすいですか。
- (6) 教員は学生が積極的に授業に参加できるように配慮していると思いますか。
- (7) 教員は学生に公平に接していると思いますか。
- (8) 授業に対する教員の意欲や熱意を感じますか。
- (9) この授業を受けてこの分野への学習意欲がわきましたか。
- (10) 授業の満足度を5段階で評価してください。
- (11) この授業について、良かった点や改善して欲しい点等を入力してください。皆さんの意見を今後の授業に役立てていきますので、ぜひ入力してください。

3. 自己点検評価

医療保健学部

教育プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項	本学では、リテラシーレベルのプログラムとしている科目（「データサイエンス」）は卒業要件に必要な必修科目としている。開講以来、履修率は100%である。そのため、看護学科・栄養学科カリキュラム完成年度までに、リテラシーレベルのプログラムを履修する学生は、全学生が受講をするため100%に近づく見込みである。令和7年度の単位修得状況は看護学科98.4%、栄養学科91.4%であった。栄養学科の数値は下がったが履修学生に数理データサイエンス・AIの重要性を教授でき、教職員によるきめ細かな学生対応ができたためと考えている。
学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項	教務・学生課教務係が取りまとめている成績評価を、各学科の担任教員が把握した後、学科内で共有し教育内容の改善に活用することとしている。
全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度から看護学科においてデータサイエンス教育導入プログラムが開始された。現在履修率は100%である。また、令和6年度から栄養学科においてもデータサイエンス教育導入プログラムが開始された。これにより必修科目である「データサイエンス」の履修率は全学的に100%が見込まれる状況である。
教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項	本プログラムを受講した卒業生はいないため、卒業生アンケート等を未実施である。令和8年度に最初の本プログラム受講生が卒業するため確実にアンケートを実施する必要がある。卒業生のアンケートを行い分析する。
産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項	上記のとおり、最初の本プログラム受講生が卒業しておらず、数理・データサイエンス・AIに関するアンケートは未実施である。就職先アンケートはすでに実施しており、追加をする形でアンケートを行い分析する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	今後とも学生に向けに本プログラムの履修に関して整備を進め、受講生側にとって目的と意義をよりわかりやすく授業内で説明することが大切と考える。また、授業評価アンケートで「この授業を受けてこの分野への学習意欲がわきましたか。」と、いう設問に対し、看護学科4.08、栄養学科4.26であることから概ね学ぶことの意義を認識しつつ、楽しみながら学習をしているといえる。また、看護学科は昨年よりも学習意欲がわいたと答える学生が増えきめ細かな学生への修学対応ができていると考える。

短期大学部

教育プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項	本学では、リテラシーレベルのプログラムとしている科目（「データサイエンス」）は卒業要件に必要な必修科目としている。開講以来、履修率は100%である。令和7年度の単位修得状況は100.0%であった。履修学生に情報・データサイエンス・AIの重要性を教授でき、教職員によるきめ細かな学生対応ができたためと考えている。
学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項	演習によって作成した成果物は都度確認を行い、学生の理解度・習熟度を確認している。講義全体を対象とした授業評価アンケートも実施している。5段階評価で行っており、解答平均値4.23と昨年度より微減したが、高水準であることは変わらず、理解度・満足度ともに高い評価を得ている。
全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	現在履修状況については100%を維持している。引き続き、100%を維持し続けられるようにきめ細やかな履修指導を徹底する。
教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項	卒業生アンケートの「本学の教育について満足していますか」では、「満足している」「ある程度満足している」を95.2%と、半数以上が評価をしている。また、資格対策のアンケートでは「満足している」「ある程度満足している」を100.0%と、修了者は満足感を感じている状況である。進路選択でも一定の評価を得られている状況である。
産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項	就職先アンケートでは、専門的知識に関して「おおいにある」「まあまあある」と72.2%の企業から支持を受けている。しかしながらリーダーシップ等発揮する場面では、「どちらともいえない」が52.7%と半数以上を占めている。そのため、より実践的な数理・データサイエンス・AIの知識的な定着を行う必要がある状況であると考ええる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	今後とも学生に向けに本プログラムの履修に関して整備を進め、受講生側にとって目的と意義をよりわかりやすく授業内で説明することが大切と考える。また、授業評価アンケートで「この授業を受けてこの分野への学習意欲がわきましたか。」と、いう設問に対し、4.23%であることから概ね学ぶことの意義を認識しつつ、楽しみながら学習をしているといえる。